

# 夢ひろく

岡山の若手指導者

23 ☆

「打球が山なりになっているぞ」「ループはもっと下から」

荘内中(玉野市木目)の体育館に大声が響く。指導する1、2年生部員23人のほとんどが中学に入ってから競技を始めた初心者。「全員が目標を持って取り組む」をモットーに、一つ一つのプレーをかみ砕き、分かりやすい言葉で伝えることを心掛けている。

自身のスタイルはペンホルダー。現在はシェークハンド主流のため戸惑いもあるが、サーブやドライブなど基礎トレーニングを徹底反復する。公

立のため平日の練習は長くても約2時間。限られた時間を有効に使うため、試合中の相手の動きを想定したり、球の回転の合わせ方などを丁寧に解説しながら教える。

かつて日の丸を背負って世界の舞台で戦い、その後は念願の教諭になった。順風満帆に見える卓球人生だが、2005年に開かれた岡山国体後、初めて自らの進路で悩んだ。岡山国体は、慣れない仕事の合間を縫って練習に励んだものの目標を下回る8強止まり。不完全燃焼の結果に選手生活に未練が残った。

しばらくは目指す大会など明確な目標が見つからず、練習にも身が入らない。指導者としても初心者への教え方が分からず空回りする日々。「すべてが中途半端だった」と振り返る。

転機が訪れたのは08

## 豊富な経験伝える



卓球

高森

英郎さん(30)

年。荘内中があと一歩で秋の県大会出場というところまで勝ち上がったのだ。卓球を心から楽しみ、プレーする生徒の姿を見て「この子たちを県大会に連れて行ってあげたい」と決意。それからというものの、週末の

練習を欠かさず行い、練習試合も頻繁に組んだ。そして翌年の夏、備前西地区予選を初めて勝ち抜き念願の県大会へ出場、昨秋の県大会では男子が団体8強、女子もベスト16に躍進した。「子どもたちがゼロからどんどん強くなっていく姿を見るのが楽しみ」。胸中には、指導者としての確かな

自信が芽生えつつある。岡山県中体連の卓球専門部では強化を担当、ジュニア層の競技力底上げに取り組む。5年後に中国五県で開かれるインターハイを見据え、県教委、県高体連、県中体連による中高強化事業も今年スタートした。「高い目標を持つことが粘り強く戦う糧になる。このことを一貫して伝えていきたい」。国内トップ選手として培った豊富な経験を惜しみなく注ぐつもりだ。

(岩谷圭)  
＝随時掲載

たかもり・ひでお 1981年、北九州市生まれ。小学1年から競技を始め、名門・東山高(京都)では2年時にインターハイで団体準優勝、翌年は団体3位と実績を残した。筑波大では3年の冬から日本代表に選ばれ、21歳以下の国際大会で優勝経験もある。2003年から荘内中に保健体育の教諭として赴任し、卓球部監督を務める。岡山市南区在住。